

目的 第3報に同じ。

方法 第3報に同じ。対象者と祖父母との同居経験の有無、およびその期間によって、現在同居している、過去に同居経験がある、過去に1度も同居経験がない、の3つに大別し、①現在同居している(今までずっと同居している、一時同居が中断された時期もあるが今は同居している、の両者を含む)。②高校生の頃まで同居したことがある。③中学生の頃まで同居したことがある。④小学生の頃まで同居したことがある。⑤今まで1度も同居したことがない。の5つに分類して、それらと対象者の老人観、老後観とのかかわりについて考察を試みた。

結果 祖父母についての思い出(精神的なもの、物的なもの等12項目に対して複数回答させた)の数は、同居期間が長いほど多い。また、思い出の内容は、同居期間を問わず第1位はこねかきやお年玉に関して、第2位、第3位は同居期間により差がみられたが、お菓子や食べ物に関して、おもちゃに関して、ランドセルや机など学習用品に関して、おんぶ、入浴、遊び相手などの日常生活に関するもの、のいずれかとなっており、同居期間が長いほど、これらを思い出として答えた者が多い。以上のような思い出を楽しい思い出とする者は、同居期間が長いほど多く、しかも祖父母に対して親しみを感じると答えた者が多い。